

農林水産省食料産業局長賞

『父と私をつなぐお茶』

京都府京田辺市立普賢寺小学校 五年 女子 西村 優月

私が住んでいる京田辺市は、宇治茶の産地である。なかでも京田辺玉露は有名だ。

新茶の時期には、地元のお茶の葉を使った献立があり、『新茶のかきあげ』は、私の一番のお気に入りだ。

地元のお茶を使った給食は、私にとって特別なのだ。

私の父は地元の京田辺市普賢寺で、宇治茶の製造、おろし売りの仕事をしている。普段でも忙しく、休日出勤が多くて家にいる事が少ないのだが、新茶の芽が出るころは、帰宅時間も夜中ほとんど家にいなくなる。

そのため、ゆっくり父と顔を合わせて話をする事ができないのだ。

小学校に入学したころはよく「お父さん、仕事ばかりで全然いないやん。」と母におこったものだ。

前に、夜中に父が帰ってくる音で目が覚めたことがあった。そのまま、

父は私と弟達がねている部屋のドアを開けて「ただいま」と声をかけた。私はどうしていかかわからず、ねているフリをした。

次の日、母にその話をする時、「お父さんは、夜中に帰ってきてもいつも子供達に声をかけてるよ。」

といった。私はうれしくなった。

それから私は、父が仕事でほとんど家にいなくて話が出来なくても、おこらなくなった。

学校の給食で「新茶のかきあげ」が出ると、いっしょにあげてある他の野菜よりもまず、お茶の葉を食べる。少し苦くて甘いお茶の味が口の中に広がる。

そして父の顔が思い浮かぶ。

京田辺玉露も特別に給食に出て飲んだことがあった。

弟はクラスのみんなに「これ、ほくのお父さんのお茶が入ってるねんで。」と自まんしたそうだ。

私も弟みたいに自まんしたいけど、お茶が入った給食を食べているみんなの反応をひそかに見ているだけだ。

あまり会えない父の事を思えるこの新茶の時期のお茶入り献立が私は好きだ。

仕事をしている父も大好きだ。

だから私もがんばれる気がします。

今度、父が早く帰ってきたら、父の手がけたお茶を飲みながら、弟と一緒に「新茶のかきあげ」の話をしようと思います。